

# エリア ウェブ

峡東教育事務所  
地域教育支援スタッフ  
TEL 0553-20-2737  
FAX 0553-20-2733

回覧・配布をお願いします。増す刷り配布はご自由にどうぞ。 この情報紙は山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

おかあさん

おかあさんは よそのひとにあら

いつもぼくのじ

「うちのたからもの」とい

ぼくはずかしくなっちゃい

おかあさんは ぼくがねるとき

いつも

「もりうた うたつてあげようか」とい

「いよ」とい

「まあまあ そつえんりよしないで

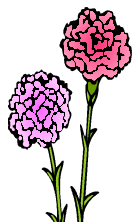
といつて うたいながらねてしま

ははのひに かあねえしよんをあげ

「ひやくとまで いきろよ」

といつたら ないた

おかあさんは ぼくのたからもの



「おかあさん、あねー

「ごもがかいたおかあさんの詩」より

監修・吉野弘、新川和江（大和書房）

子どもたちが家に帰ると、まず最初に「おかあさん」という言葉を口にします。決してお父さんではないところが、残念というか、さみしいですね。

10ヶ月もお腹の中にいて、大変な苦勞をして出産。産後はいつも子どもと一緒に母親。

それに比べ父親はというと、出産の時はオロオロし、仕事で子どもとふれあえず、たまに抱っこすれば不思議そうな顔をされる。これでは、母親にかなうはずがありません。

こんな例え話があります。

子どもが広い海原を懸命に泳いでいる。後ろから、わが子に声をかけ、時には叱咤激励するのが父親。

心身ともにくたくたになって浜辺に着いたとき、「よくがんばったね。」と言ってやさしく抱いてやるのが母親。

子どもからしてみれば、やさしく抱いてくれる母親に、何とも言えない安心感を覚えるのでしょ

この詩の「おかあさん」はどんな人でしょうか？

まず、親の愛情を子どもにちゃんと伝えているお母さんです。「うちの宝物」と人に言われることは恥ずかしいけど、すごく嬉しいことなんでしょうね。

次に、子守歌を歌いながら寝てしまう、そんな人間味のあるお母さんです。『完璧な母親でなくては...』という思いが自分だけでなく、子どもにもプレッシャーを与えている場合があります。ご用心。

そして、子どもの愛情をちゃんと受け止めているお母さんです。子どもは、時にうるさいくらい母親にまとわりつくものです。「ねえねえ、お母さん。」と言われて、「後で!」、「今忙しいの!」。挙げ句の果てには、「うるさい!!」。これでは、「親から大切にされている」と子どもは感じられないでしょう。

時には煩わしいと感じる「子育て」。でも、それが「宝物の時間だった」ということは、子どもが大きくなってから分かるものです。

# 学 齡 期 の 子 ども たち

最近手にした本の中にこの題名が、目にとまりました。現代の小中学生のある一面を表していますが、子ども理解の参考になればと思います。

昨今の新聞や雑誌で、今の子どもの問題行動がしばしば記事になっています。記事は、もちろん、非行や犯罪もありますが、ふだんから気になる行動にも及んでいます。世相に敏感な記者がとらえた子どもの現状を、キーワードで追ってみましょう。

## 「おぼろっ子」

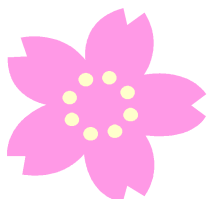
「おぼろ」、つまり「おぼろ月夜」というようにボーとしている子。遊びで飛んできたボールをうまくかわせず顔面に当てて泣いてしまう。遊びなれている子どもには考えにくいことが、起こっています。

## 「イルカ族」

イルカは曲芸で人々を楽しませるなど頭がいい動物ですが、見たところ手と足がなさそうです。そこからの連想で、子どもは頭でいろいろ考えて、物事の理解は早いですが、実際に五感・身体を使った体験は苦手というものです。リンゴの皮むき、竹とんぼづくり、キャンプでの火起こしなどで子どもの戸惑いが例に挙げられます。

## 「イワナ族」

渓流に棲むイワナは縄張り意識が強い魚とみえて、他の魚が来ると追い出してしまいます。また自らも縄張りから出ていきません。今の子どもは少数の親しい友だちとは付き合いますが、それ以外の子どもとは関わろうとはしないといえます。



## 「八方少年」

これは「八方美人」のもじりで、親や先生など周囲のだれにでもいい顔をしていて、自分の欲求をストレートに表に出そうとしません。周囲の意向をいち早くとりいれ、従順な態度をみせます。

## 「無行少年」

これは「非行少年」のもじりです。非行を防止し、非行から立ち直らせるというのは重要ですが、逆に、非常にいい子で、悪いことをまったくしたことがなく、そのまま大人になっていくことが、ほんとうにいいことなのだろうかという思いが、この言葉に込められています。少年期のつまずきと、そのときの周囲の温かいまなざしに支えられた体験は、後年の人生で捨てたものではありません。

このほかに、ゲーム機に熱中することで起こる脳への悪影響（ゲーム脳）、携帯電話の普及による友だち関係への悪影響（携帯イジメなど）、生活習慣の乱れなども指摘されています。子どもが育つ環境を、引き続き注視していくことが重要です。

## 参考

### 携帯イジメ

携帯電話にすぐ出ないと、友だちから「何で出なかったの」といわれる。だから寝ているときも、いつでも着信音がしたらすぐ取る。携帯なしでは仲間からはずれて生きていけないと思うくらいに仲間関係が逼迫している子どもがいる。

（文：野島正也・文教大学教授）

（平成17年3月発行・生涯学習ハンドブックより  
：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター）



# 巣立ちの時?!



人間はどうして暦をつくったのでしょうか。そして、どうして正月を祝ったりするのでしょう。それはたぶん、変化を見極められない日常に節目を付けることによって、意欲や目標を得るためなのだと思います。だから、お父さんは「一年の計は元旦にあり」とか言って、禁煙を誓ったりするのです。

そのような意味で節目となる日はたくさんありますが、卒業式は喜びと共に過去を振り返り、未来を眺望する貴重な節目です。この日を大切に、新しい社会での第一歩を確実に踏み出すための手助けをしてあげたいものです。

## 卒業はステップ・アップ

一般に卒業は、次の、より高次な社会への入口と接しています。そして、次の高次な社会に挑戦するためには、卒業までに力を蓄えておく必要があります。

だから、例えば、保育園・幼稚園から小学校に上がるときに「何ができないかいけないの?」と不安になったり、「今になってそんな準備はできないよ」ということも出てきます。



でも、あまり心配しないことが大事。話がしっかり聞いて返事ができるとか、自分のこと(整理整頓や衣服の脱着など)は自分でできるとかという基本的なことができていれば、幼稚園や保育園で出遅れてしまっても大丈夫。先は長いから。小学校や中学校で出遅れたって大丈夫なこともあります。要は、子どもが、「いつ自覚を持つか」が大事なのです。

「高校へ入ってからですよ。」とM君の父親。そういう意識を培ってきたのでしょう。見事、第一希望の大学へ合格。親がいろいろ言うよりも自覚した子どもは強い。M君には「受験勉強は高校から」という方針がしっかり受け止められていたのではないのでしょうか。

だから、一番大切に忘れてはいけない準備は、小学校でいえば「学校は楽しいところという期待を持たせること」なのだと思います。(基本は中学校・高校・大学・実社会みな同じですが、特に小学校に上がるときは大事です)。

ところで、最近では登下校の安全を確保することも大事になりました。私も、子どもが小学校へ上がる時には、通学路を何回か一緒に歩きました。「何かあったらどの家でも良いから駆け込みなさい」とかいう注意を与えながら...。それから、小学校ではトイレの練習も大事。最近の家屋は洋式トイレ。小学校はほとんどが和式。ほんのちょっとしたことで子どもは安心して学校に行きます。

## 卒業はリセット

思い通りにいかなかった学校生活もあるはずですが、卒業はリセットの機会でもあります。これまでの習慣や人間関係を精算して、新たな第一歩を踏み出すきっかけにできるのも卒業です。

Y君は、たったひとりで遠くの中学から進学してきました。近くに十分進学できる高校があったのに。高校では明るく活発なY君。中学時代の先生が驚くほど。自分を変えるために友だちのいない高校を選んだのだそうです。真の意味での、一念発起。すごいと思いました。

## 卒業は巣立ち?

卒業はよく「巣立ち」に例えられますが、人間は簡単には巣立ちません。高校生になっても、大学生になっても、場合によっては、社会人になっても。



だから、親に必要なのは、成長に合わせたサポート。実は、大人になるほど注意深いサポートが必要。子どもが勝手に動き回るようになるから。理想は孫悟空に対するお釈迦様。自由に動いているように思えて、実はその両手の中にいる。視線はいつも注がれている。

もっと言えば、究極の目的は立派な社会人になること。もしこれができるのなら、卒業しなくたっていい。本人がその気になれば、高校卒業程度認定試験があったり、生涯学習社会で学習する機会はいっぱいあるのですから...

ゆったりと構えて、おおらかで大きな心で子育てに取り組みたいものです。

# 地域教育推進事業へのご協力 本当にありがとうございました。

私たち、地域教育推進の業務には主に次のようなものがあります。

保・幼・小・中・高・養・大の連携の推進。  
地域の子育て支援の推進と子育て講演会の開催。  
情報紙「エリアウェーブ」の月1回の発行。  
教育行政相談，教育相談窓口。

これらの業務のうち主なものをあげながら，1年間をふり返ってみたいと思います。

## 峡東地域教育推進連絡協議会の開催

8月3日（木）。山梨市・甲州市・笛吹市の教育委員会や各学校，保育所・園などがさらに連携できるように，峡東地域教育推進連絡協議会を設立しました。

## 講演会，セミナー等の開催

- ・ 8月3日（木）八代総合会館  
「愛されて育った子は親を忘れない」  
講師；坂本 光男 先生
- ・ 12月5日（火）  
「峡東地区の連携の在り方について」  
講師；堀井 啓幸 先生
- ・ 2月22日（木）  
「最近の育児事情」  
講師；文珠 紀久野 先生  
《文珠 紀久野 先生の講演会より》  
「今，子どもにしてあげられること」  
子どもらしい環境と時間を用意。  
子どもの権利，人格を大切にする。  
親が子育ての貴重な体験をさせてもらっているという自覚を持つ。  
自分が子どもだった時にやってほしかったことを，子どもにしてあげる。

## 地域に開かれた学校づくりへの協力

小中学校や県立学校，産業技術短期大学など開かれた学校づくりに協力しました。「新しい高校入試説明会」で中学校へ講演にも行きました。

## 中学・高校生の職業体験受入事業所リストの作成

「高校生向けジュニア・インターンシップ受入協力事業所リスト」を作成し，峡東管内の中学校と高校に配布しました。今後も大いに利用されることを願っています。

## 保・幼・小・中・高・養・大の連携の推進

峡東地域の教育委員会や保育所・園，各学校等を訪問しました。また，子育て支援の関係団体や子育てサークルなども取材をし，多くの情報を得ることができました。

改めて異校種間の連携の重要性，地域の子育てをしっかりと応援することの大切さを痛感しました。

## 地域教育情報紙「エリアウェーブ」の作成と配布

年間12回，各回1200部を印刷し，管内の保幼小中高，短大，教育関係機関，県庁関係課等へ配布しました。

多くの保育所・園，学校等で増し刷りをし，職員の方や各家庭へ配布していただきました。又，電話やメールなどで多くの感想・ご意見をいただき，大変参考になりました。

このように，本年度の事業を無事に終わることができたことは，関係者の方々の多くのご協力・ご支援をいただいたおかげだと思います。本当にありがとうございました。

峡東教育事務所 地域教育推進  
志村 篤 男  
中宮 込 富 夫  
宮 崎 靖



声かけて 声かけられて 広がる輪！  
おはようで 今日も始まる 明るい一日